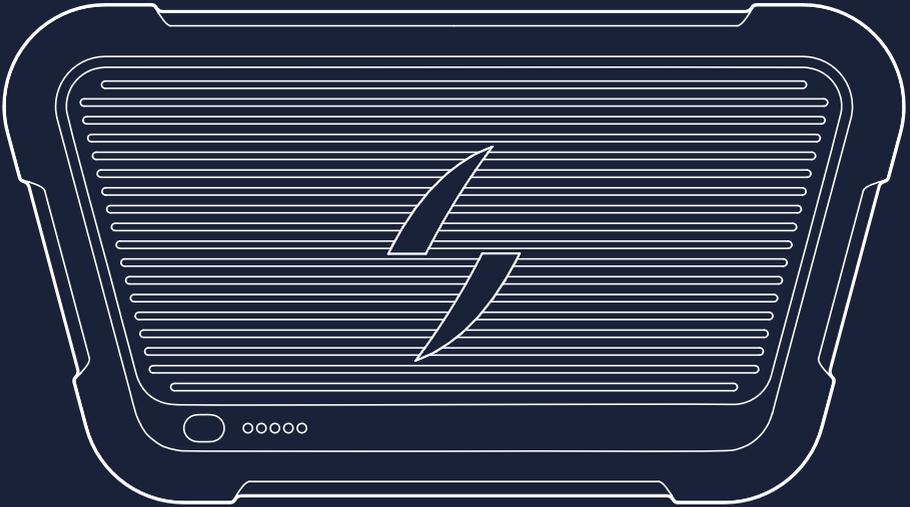


使用 說明書



お手持ちのアクセサリは？
こちらをスキャンして説明書
をご覧ください。

www.swytchbike.com/help/manuals/



安全に関する警告

Swytch電動アシストキットを安全にお使いいただくため、以下のガイドラインに従ってください：

目的とする用途

Swytchキットは、道路や舗装の行き届いた路面用に設計されています。10cm以上の段差からのドロップオフ、スタント、クロスカントリー、エクストリームスポーツには適していません。間違った使い方をすると、一部の部品の故障につながり、保証が無効になることがあります。電源パックが強い衝撃を受けた場合、Swytch担当者から安全性の確認を得ずにキットを使用して走行を続けることはおやめください。本製品は、お住まいの地域の法律・法令を遵守してご使用ください。

充電器に関する警告

電源パックはご家庭で安全に使用できますが、充電器とバッテリーを接続すると徐々に温度が上昇します。これは自然なことです。GO電源パックの充電には、旧型充電器を使用しないでください。それで保証が無効になります。電源パックを必要以上に長時間充電中のまま放置しないでください。バッテリー寿命が短くなる可能性があります。充電中は、換気を十分にしてください。

ご注意：アップグレードキットにはプラグが付属していません。

旧型キットからプラグをリサイクルして、新しい充電ブロックと一緒に使用することができます。

電源パックに関する警告

キットが届いたら、すぐに電源パックを充電してください。電源パックの充電には、付属のSwytch充電器のみをご使用ください。

保管中の電源パックは90日ごとに充電してください。怪我や破損の危険を減らすため、使用説明書全体をよくお読みください。この電源パックは、気温が-10°C以下または40°C以上の場所に置かないでください。バッテリーには危険物質が含まれていますので、分解したり、穴を開けたり、水に浸したりしないでください。

使用しないときや保管中は、主電源ボタンを必ずオフにしてください。そうしないと、徐々にバッテリーが消耗します。電源パックの取付には、マジックテープのストラップ3本を必ず使用してください。各ストラップのバックルで、電源パックをしっかりと固定してください。

装着後は、電源パックの位置が自転車のブレーキ機能に影響しないかどうかを必ず確認してください。ストラップが擦り切れたりちぎれたりした場合は、保証交換について弊社チームにご相談ください。

充電中以外は、シリコンカバーを充電ポートに必ず装着してください。ポート内に水が入ったり結露したりした場合は、充電前にポートを乾燥させてください。

充電器以外の金属や導電性の物体を充電ポートに差し込むと、感電、火災、その他の怪我の原因になることがあります。

ディスプレイに関する警告

GOシステムはAirまたはMaxのベースディスプレイと一緒に使用しないでください。



コネクターに関する警告

使用しないときや保管中は、必ずコネクターを電源バックから取り外してください。雨の中を走行した後は、次回接続する前にコネクターやポート内に水が浸入していないかどうかを必ず確認してください。

湿ったコネクターは取り付けないでください。完全に乾燥してから使用してください。

モーターホイールに関する警告

カーボンファイバーなどの弱い／細いフォークの場合、フォークを損傷せずに安全にモーターのトルクを伝達するため、トルクワッシャーに加えてトルクアームが必要になる場合があります。

アクスルをフォークに取り付けるときは、しっかりフィットするよう固定します。少しでも動くように感じたり、アクスルがフォークにしっかりとまらなかつたりする場合は、必ず弊社サポートチームにご連絡ください。

Swytch Bike公認担当者の同意を得ずに改造しようとすることは絶対におやめください。

走行前にネジ等を締め付ける

初めての走行でも、100回目の走行でも、道路に出る前にすべてのナット、ネジ、ボルトが固く締まっていることを確認してください。部品に何か所でも緩みがあると、走行中にモーターホイールが外れることがあります。どうぞご注意ください。

100km走行するたびに、ホイールのスポークネジが固く締まっているかどうかチェックし、ホイールが安定していることを確認してください。さらに詳しくは、デジタルマニュアルのメンテナンスの項目をご参照ください。

自転車のメンテナンス

どんな自転車でも、安全に走行するためにはよく整備し、正しく動作する状態でなければなりません。定期的に自転車のコンディションをチェックして整備してください。

スペア部品

安全上最も重要なコンポーネントには、純正交換部品のみを使用してください。

Swytchキットには、消耗品や潤滑剤は必要ありません。サードパーティの交換部品を使用すると、保証が無効になります。スペア部品の詳細については、弊社サポートチームにお問い合わせいただくか、shop.swytchbike.comで追加商品をご購入ください。

警告

マニュアル全体を通して、このような吹き出しがある場合、安全上の指示に従わないと重大な傷害や深刻な物的損害、死亡事故などを引き起こす可能性があることを

警告します。



お問い合わせ

Swytch Bikeで初めて走行する前に、正しく組み立ててあることをご確認ください。

ヘルプやサポートがさらに必要な場合、support.swytchbike.com で弊社ヘルプセンターをご利用ください。

EPAC規格の要件に従い、Swytchキットが発する騒音(A特性音圧レベル)は70 dB(A)を超えません。

目次

1

はじめに

キット内容のチェック	8
必要な工具類	9

2

取付・装着

モーターホイール	11
ペダルセンサー	17
電源パック	37
ハーネス	41

3

自分のキットを理解する

走行を始める	46
充電	47
メンテナンス	48

1

はじめに

キット内容のチェック

必要な工具類

キット内容のチェック

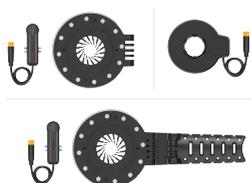
作業を始める前に、このリストですべての部品を準備します。



電源パック



モーターホイール



ペダルセンサー
(選択したオプション)



2A充電器



ハーネス
(選択した長さ)



ケーブル縛り紐

*オプションの付属品は記載しませんのでご注意ください。

必要な工具類

キットの取り付けには以下の工具が必要です。これらは付属していませんのでご注意ください。



六角棒レンチ(アーレンキー)セット



タイヤレバー



自転車用空気入れ



調整式スパナ(モンキーレンチ)



測定定規



ハサミ

2

取付・装着

モーターホイール

ペダルセンサー

電源パック

ハーネス

モーターホイール



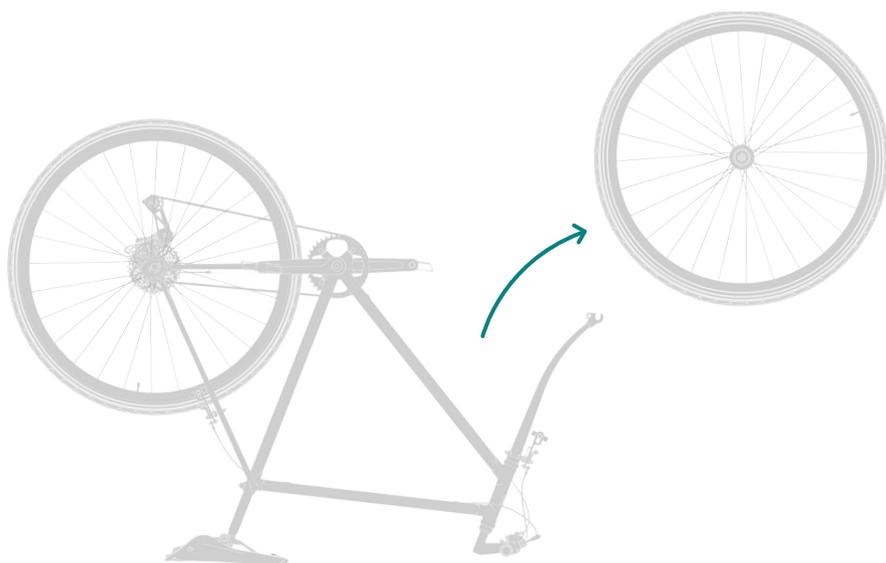
Swytchモーターホイールはご指定のサイズで製造し、自転車の動力となる250Wモーターハブを組み込んであります。フォークにしっかりと安全にはめ込むことが重要です。

1. 既存の前輪を取り外す

- 1.1 自転車を上下逆さまにして置きます。ブレーキを解放し、前輪を緩めて取り外します。

ご注意

この手順は、お手持ちの自転車のブランドや種類によって異なります。ご不明な点があれば、自転車メーカーの説明書をご参照ください。



2. Swytchモーターホイールを準備する

2.1 Swytchモーターホイールに、タイヤとチューブを取り付けます。タイヤチューブセットは、お手持ちの品でも新品(推奨)でもかまいません。

2.2 メーカーの推奨する空気圧に従い、タイヤに空気を入れます。この情報はタイヤ側面に記載されています。

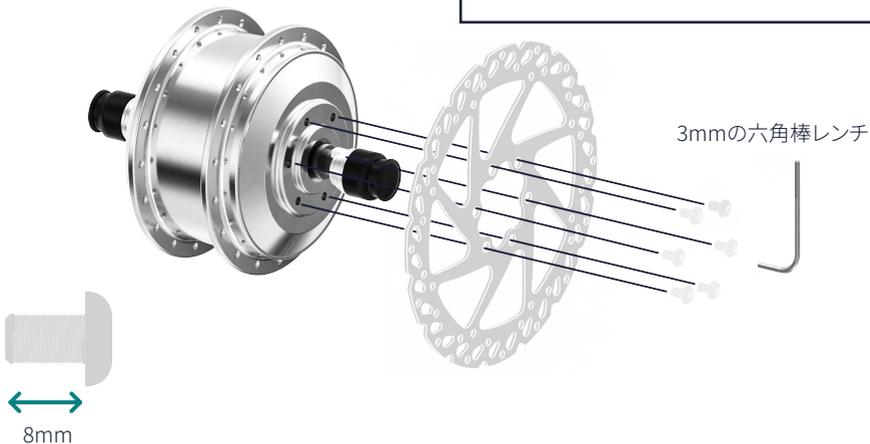


2.3 ディスクブレーキの場合は、モーターホイールから6本のネジとプラスチックのスペーサーを取り外します。

2.5 既存のネジとハードウェアをご使用ください。ネジ長8mmのネジが必要です。

2.4 ディスクローターを古いホイールから外し、Swtchモーターホイールに取り付けます。

締付トルクは、必ず2~3Nmに設定してください。
サポートには、マニュアルの swytch-bike.com/manual/3nm/ をご利用ください。



3. Swytchモーターホイールを自転車に取り付ける

- 3.1 ネジを少し緩め、Swtchモーターホイールをフォークのドロップアウトエンドに差し込みます。

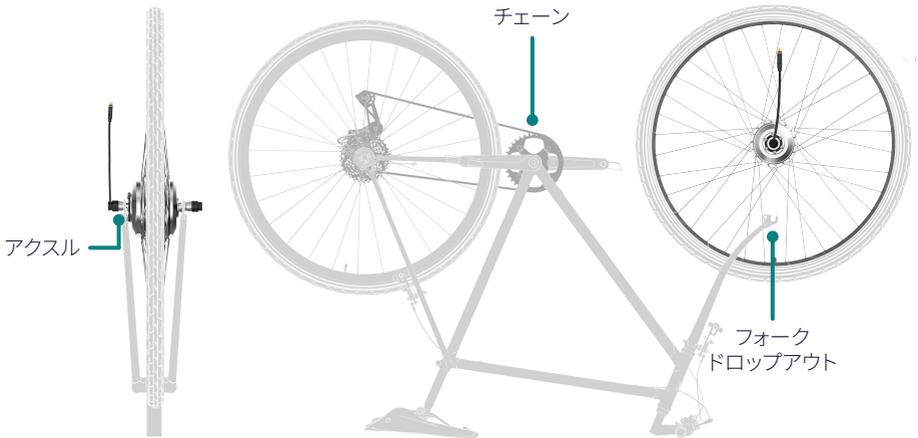
もしアクスルとフォークの間に隙間があったり、しっかりフィットしなかったりする場合は、弊社チームにサポートを依頼してください。



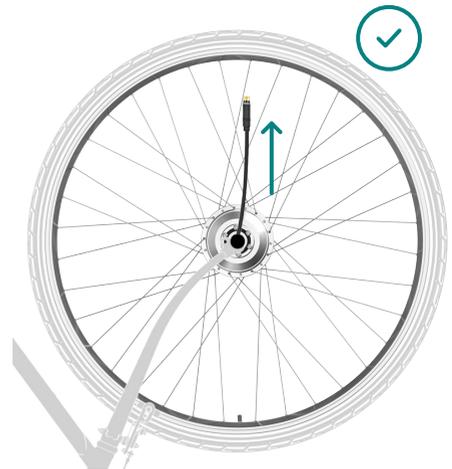
モーターケーブルは、チェーンと反対の側に設置しなければなりません。



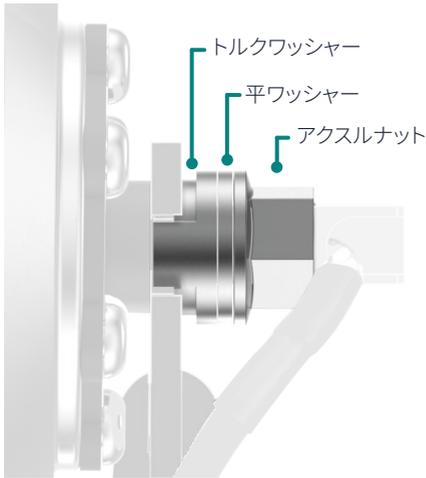
モーターホイールがフィットするよう、フォークにヤスリをかけることはおやめください。対処のオプションはチームにお問い合わせください。



自転車を上下逆さまに置いたとき、モーターケーブルは必ずモーターから上空方向に突き出していなければなりません。

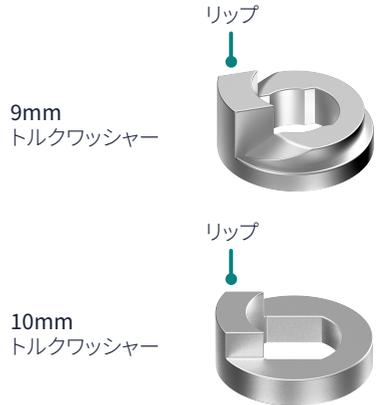


- 3.2 図に従い、トルクワッシャー、平ワッシャー、アクスルナットを自転車両側に取り付けます。自転車フォークのドロップアウトは、トルクワッシャーのリップ部の周囲にぴったりフィットする必要があります。



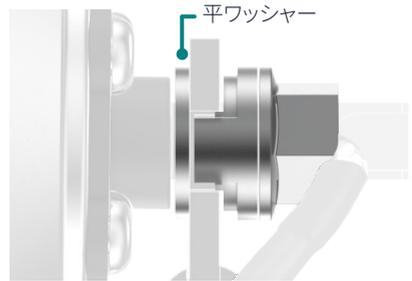
ご注意

ホイールサイズに応じて、9mmまたは10mmのトルクワッシャーをお届けします。

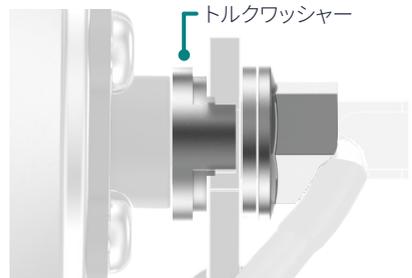


モーターホイールが正しくフィットしない場合は？

モーターのケース部分がフォークに接触していないかどうか確認します。接触していれば、フォークの内側に平ワッシャーを追加して間隔を広げます。



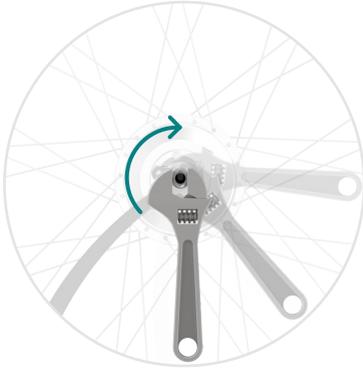
または、平ワッシャーの代わりにトルクワッシャーをフォーク内側に移動します。



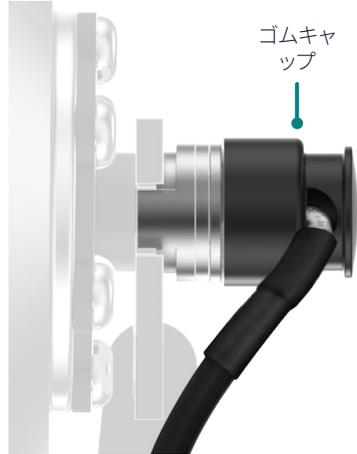
トルクワッシャーがフォークを押し出すので、フォークをトルクワッシャーに固定するために少し力を加える必要があるかもしれません。

4. Swytchモーターホイールを締め付ける

- 4.1 スパナでモーターホイール両側のナットを締め付けます。そのため、ゴムキャップを一時取り外す必要があります。
- 4.2 ゴムのカバーを再びモーター両側のナットに装着します。



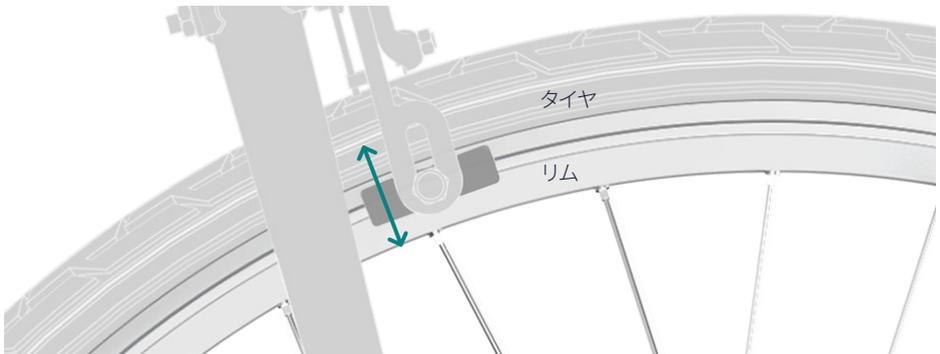
締付トルクは、必ず45Nmに設定してください。
サポートには、マニュアルの swytchbike.com/manual/45nm/ をご利用ください。



5. ブレーキのチェックと調整 (必要な場合)

- 5.1 自転車を上下逆さまに置きます。
- 5.2 リムブレーキの場合、パッドが新しいリムに正しく接触するかどうか確認します。ブレーキパッドは、タイヤではなくリムのみに触れることが必要です。

ブレーキの調整は、自転車メーカーの指示に従ってください。
ご自分でブレーキを調整するのが不安な場合は、swytchbike.com/manual/adjustbrakes/ でサポートをご利用ください。



6. モーターホイールのチェック

- 6.1 自転車のフロントを地面から持ち上げ、モーターホイールを手で回します。ホイールは自由に回転する必要があります。



カーボンファイバーなどの弱いフォークの場合、フォークを損傷せず安全にモーターのトルクを伝達するため、トルクワッシャーに加えてトルクアームが必要になる場合があります。



アクスルをフォークに差し込む際、ぴったりとはめ込まれたことを確認します。少しでも緩みがある、またはフィットに問題がある場合は、弊社サポートチームにご連絡ください。Swytch Bike担当者の承認を受けずに改造することはおやめください。

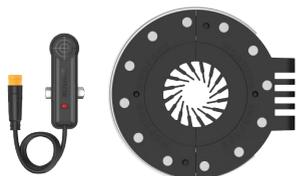
ペダルセンサー

このセンサーはペダリングの検知に使用します。

ご注文ポータルで選択したペダルセンサーのオプションによって異なります。下の表で、適切な指示・説明のページを確認してください。

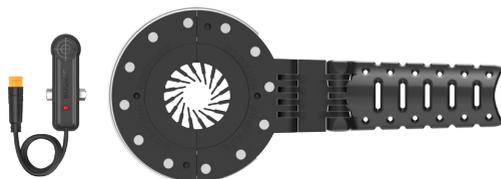
標準ペダルセンサー

17ページ (次ページ)



汎用ペダルセンサー

23ページ

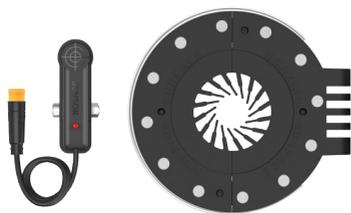


一体型ペダルセンサー

32ページ



標準ペダルセンサー



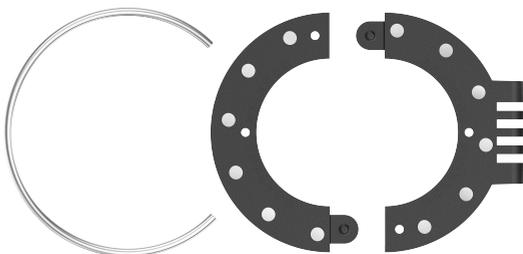
標準的な2ピースの磁気ディスクで、大部分の標準的なクランク(例:スクエアテーパー)とペダルセンサーに適しています。

内容:

ペダルセンサー:



磁気ディスク:

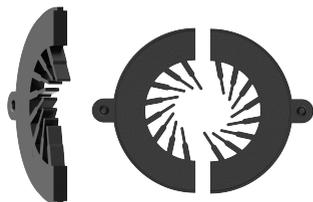


固定リング

磁気ディスク

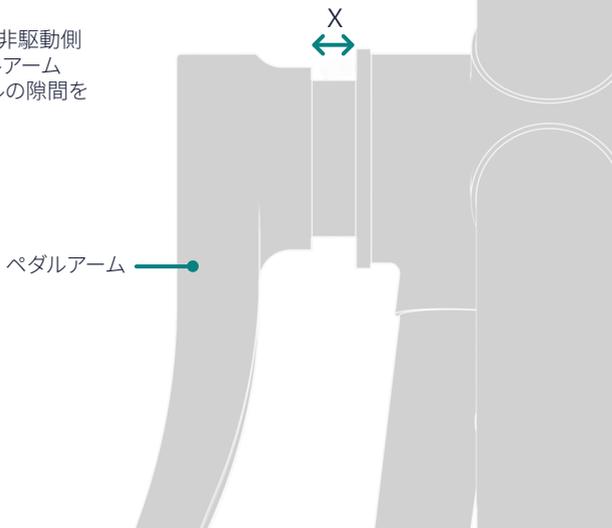
付属インサート:

イージーフィット標準インサート(2個)



1. ご自分の自転車にインサートが必要かどうかを判断する

- 1.1 測定定規を使って、自転車の非駆動側（チェーンと反対側）のペダルアーム縁端とボトムブラケットシェルとの隙間を測ります。



2. 以下の表をご確認ください。

- 2.1 この表で計算して、ご自分の自転車に必要な構成を判断してください。

ご注意

隙間が4mm以下の場合、汎用センサーのご注文が必要かもしれません。サポートにご連絡ください。

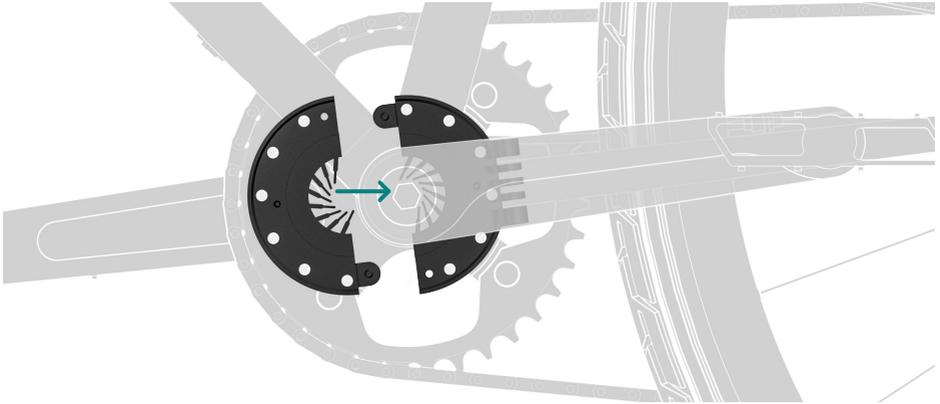
x - ペダルアームとボトムブラケットシェルの間隔	構成
2mm以下	イージーフィット標準インサートをお試しください。サイズが合わない場合は、サポートにご連絡ください。
2mm～4mm	イージーフィット標準インサートをお試しください。サイズが合わない場合は、サポートにご連絡ください。
4mm以上	磁気ディスクおよびイージーフィット標準インサート

3. 磁気ディスクを装着する

3.1 自転車のチェーンと反対側、ペダルアーム背後のクランク軸の周囲に磁気ディスクをはめ込みます。

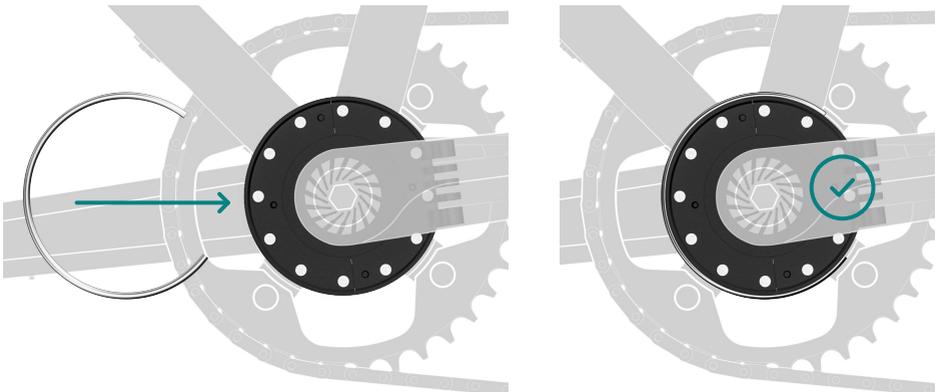
3.2 磁気ディスクの半円を2枚合わせ、パチンと音がするまで押し込んでぴったりフィットさせます。

ディスクの「Working Surface」(作業面)と印字された面が自転車のフレームに面していることを確認してください。



4. 固定リングを装着する

4.1 固定リングを磁気ディスクの周囲に滑り込ませ、2枚を安全に固定します。

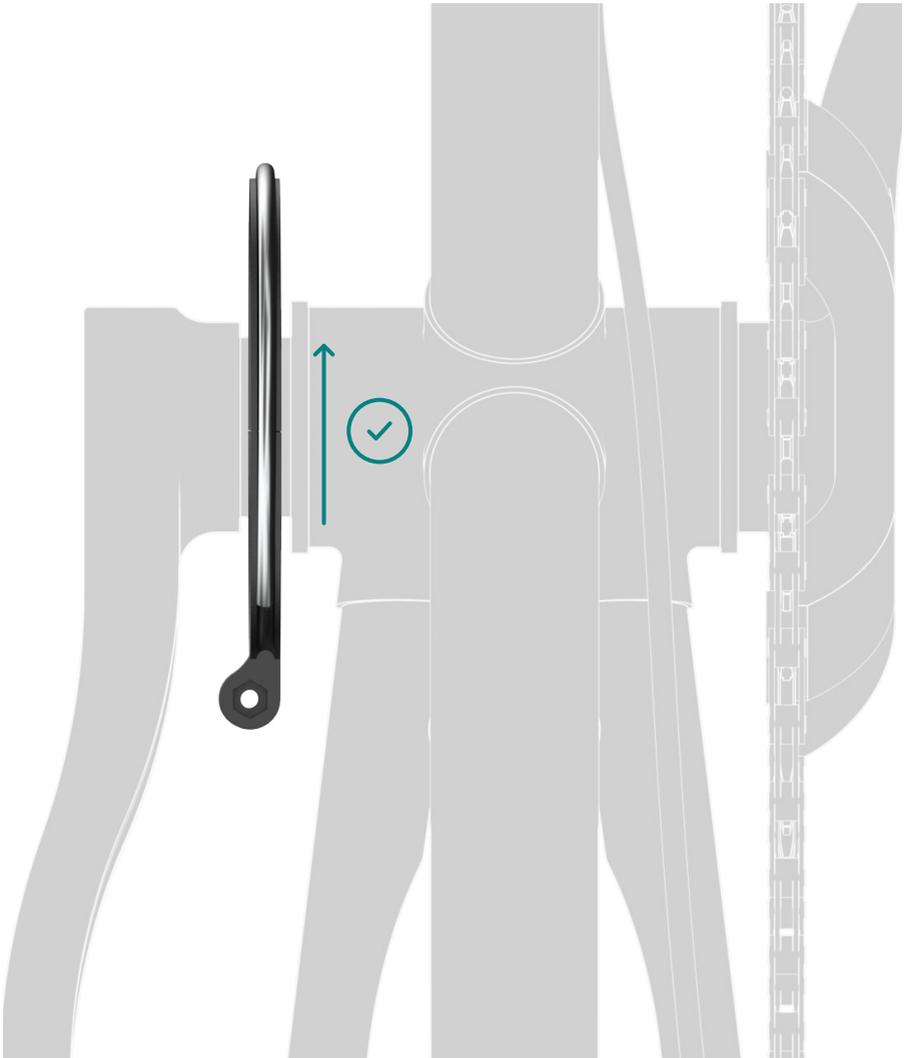


5. アライメントのチェック

- 5.1 磁気ディスクは、フレームに対して平行を保って動作する必要があります。ペダルアームを逆方向に回転してアライメントをチェックし、少しでも動きを生じるかどうか観察します。

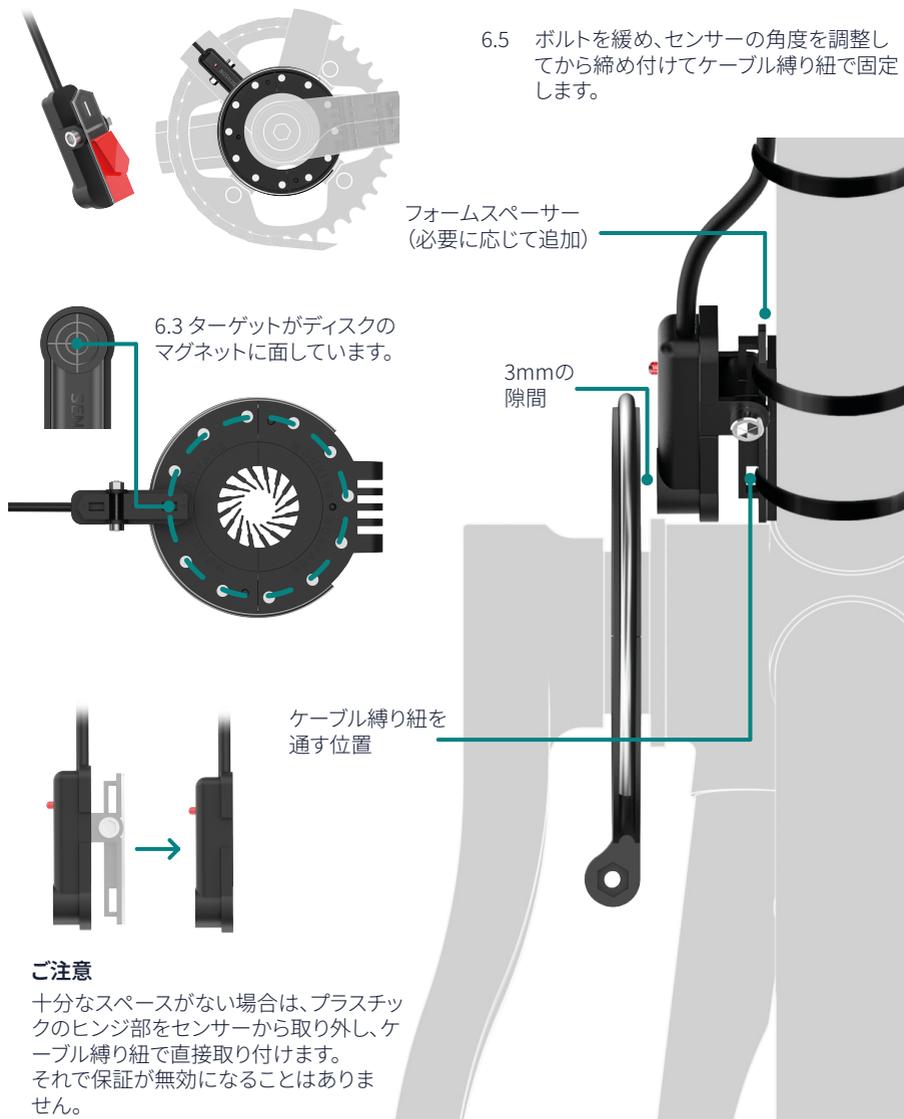
ご注意

アームを回転させたときに磁気ディスクがズれる場合は、イーザーフィット標準インサートを使用するか、サポートに連絡して
汎用ペダルセンサー用磁気ディスクをリクエストしてください。

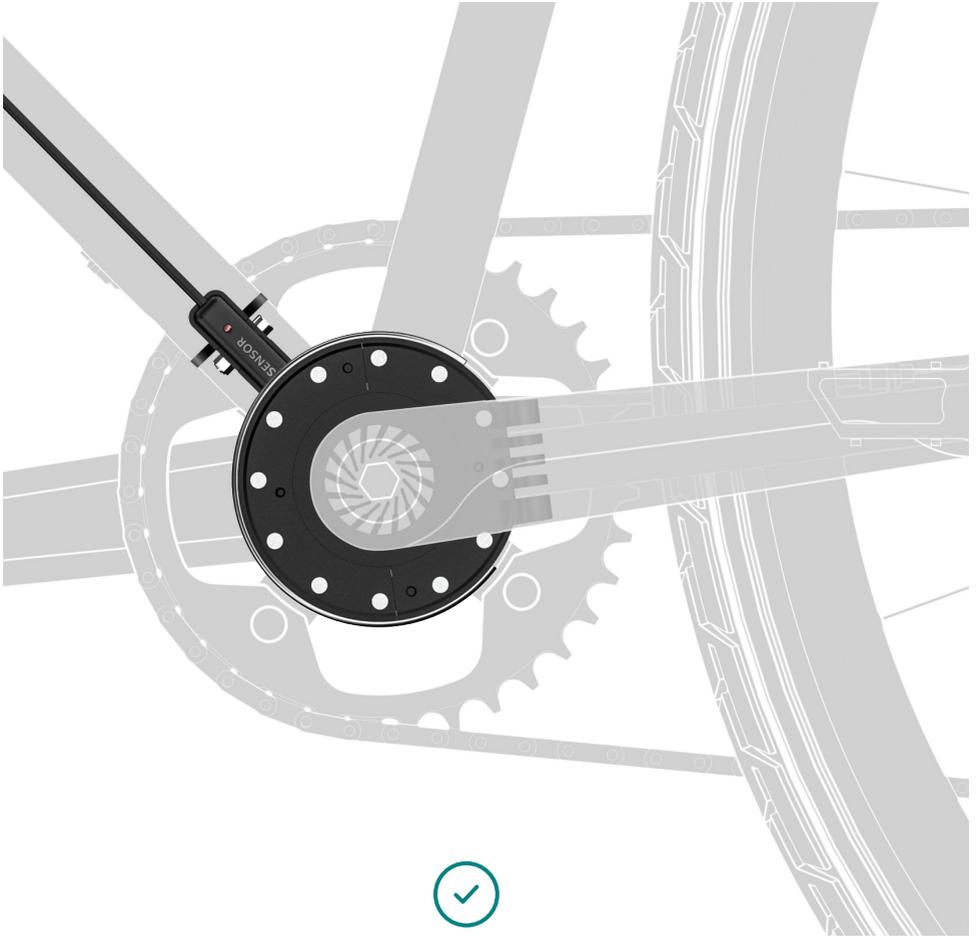


6. ペダルセンサーの位置決め、貼付と固定

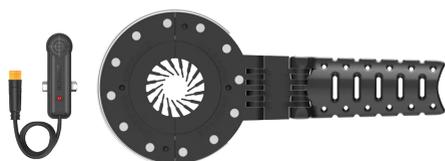
- 6.1 赤いシールをはがし、ペダルセンサー裏側の粘着面を開きます。
- 6.2 ペダルセンサーをダウンチューブまたはシートチューブの側面に貼り付けます。
- 6.3 ペダルセンサー中央部の高さがディスクのマグネットと必ず一致するようにしてください。
- 6.4 センサーの位置が磁気ディスクから3mm以内になるよう、必要に応じて粘着フォームスペーサーを使用します。
- 6.5 ボルトを緩め、センサーの角度を調整してから締め付けてケーブル縛り紐で固定します。



7. 終了



汎用ペダルセンサー



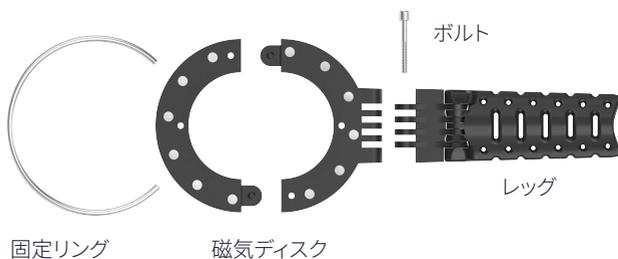
汎用の3ピース磁気ディスクとペダルセンサーであらゆるクランクに対応します。

内容:

ペダルセンサー:



標準磁気ディスク:



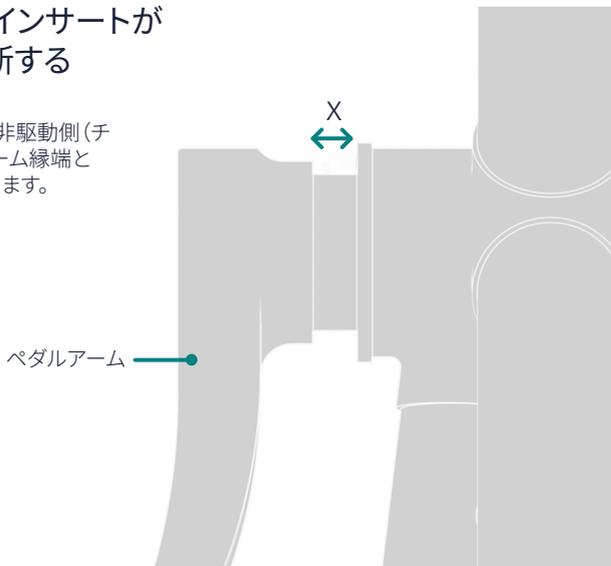
付属インサート:

イージーフィット標準インサート(2個)



1. ご自分の自転車にインサートが必要かどうかを判断する

- 1.1 測定定規を使って、自転車の非駆動側（チェーンと反対側）のペダルアーム縁端と自転車フレームの隙間を測ります。



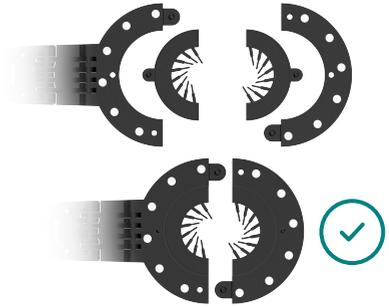
2. 以下の表をご確認ください。

- 2.1 この表で計算して、ご自分の自転車に必要な構成を判断してください。

x - ペダルアームとフレームの間隔	構成
4mm以下	標準磁気ディスク、インサート不使用 
4mm以上	標準磁気ディスクおよびイージーフィット標準インサート 

3. 正しいインサートの装着 (必要に応じて)

- 3.1 インサートを磁気ディスクアームのメス部に合わせます。インサートはどちら向きでも使用できますが、図のように放射状の歯の方向が一致するようにしてください。



4. 磁気ディスクのレッグを反転する必要があるかどうかを判断する

- 4.1 ご自分の自転車のペダルアームが以下の2種類のどちらかを確認します。
- A. 丸型または平型ペダルアーム
ペダルアーム裏側が平坦、または丸みを帯びています。

磁気ディスクのレッグは、図のように丸型または平型のペダルアーム (A) に取り付けられるようになっていしますので、ステップ6に移動してください。



- B. 凹型ペダルアーム
ペダルアーム裏側に凹型のくぼみがあります。

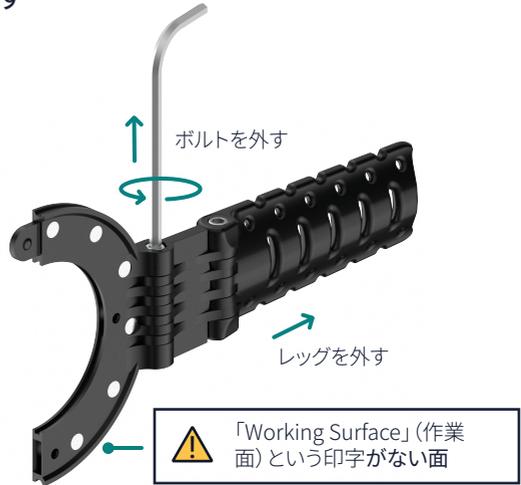
よりよくフィットさせる方法については、次ページのステップ5をご覧ください。



5. 磁気ディスクのレッグを裏返す

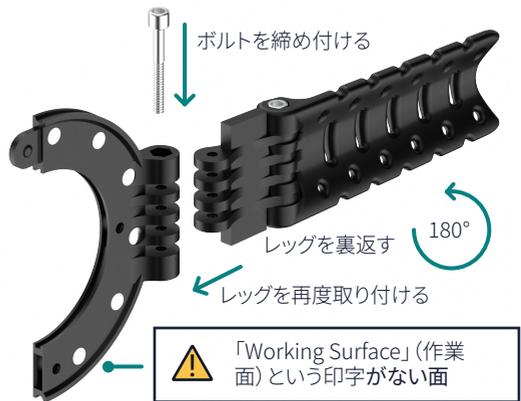
(凹型ペダルアームのみ)

- 5.1 2.5mmの六角棒レンチでボルトを緩めま
す。ボルトとレッグを取り外します。



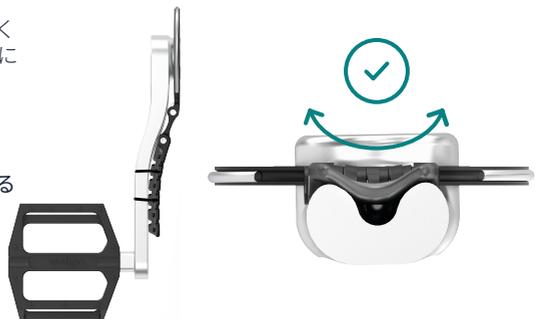
- 5.2 図に一致するよう、レッグを
180度反転して裏返します。

- 5.3 もう一度レッグを取り付け、ボルト
を締め付けます。



- 5.4 レッグの輪郭がペダルアームの凹型のく
ぼみと重なり、よりよくフィットするよう
になったことを確認してください。

これで磁気ディスクを自転車に装着する
準備ができました。



6. 磁気ディスクを装着する

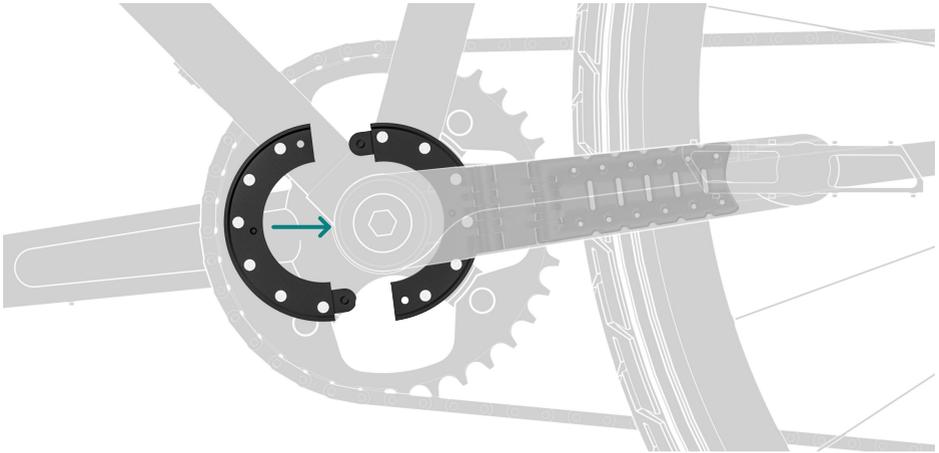
6.1 自転車のチェーンと反対側、ペダルアーム背後のクランク軸の周囲に磁気ディスクをはめ込みます。

ディスクの「Working Surface」(作業面)と印字された面が自転車のフレームに面していることを確認してください。

6.2 磁気ディスクの半円2枚を合わせ、パチンと音がするまで押し込みます。

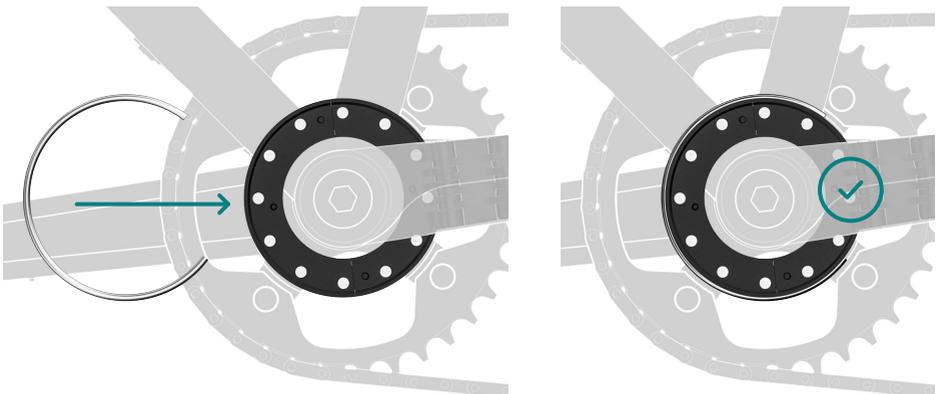
ご注意

インサートを使用する場合は、前記の指示に従ってください。



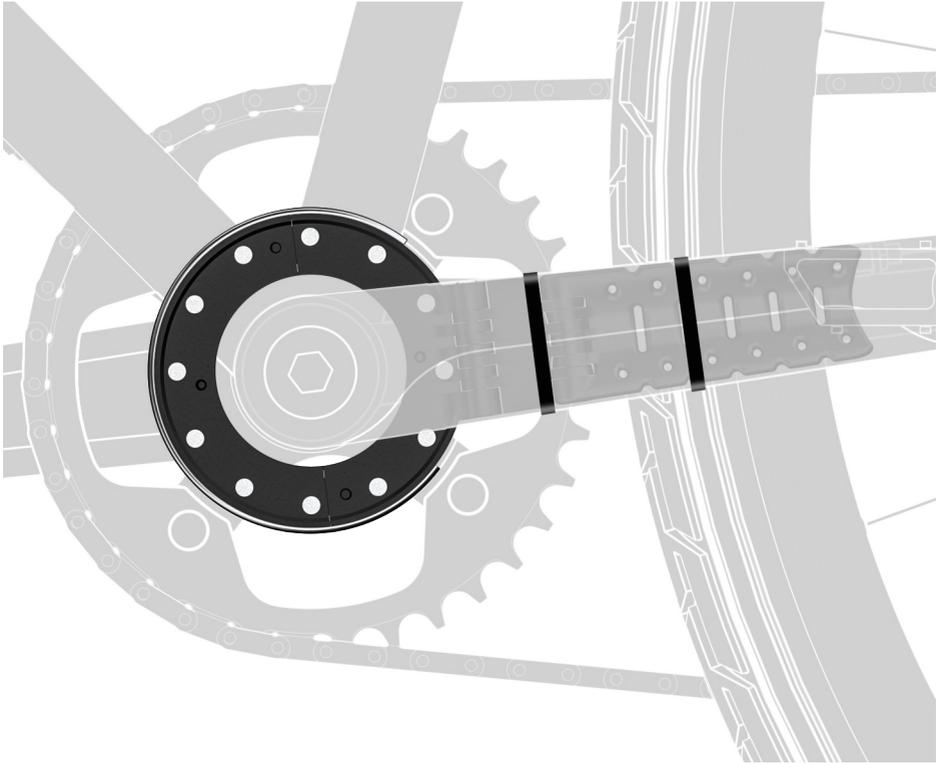
7. 固定リングを装着する

7.1 固定リングを磁気ディスクの周囲にはめ込み、2枚を安全に固定します。



8. ケーブル縛り紐でアームを固定する

- 8.1 磁気ディスクのアームをペダルアーム内側に固定するため、最低2か所をケーブル縛り紐で軽く締め付けてください。



ご注意

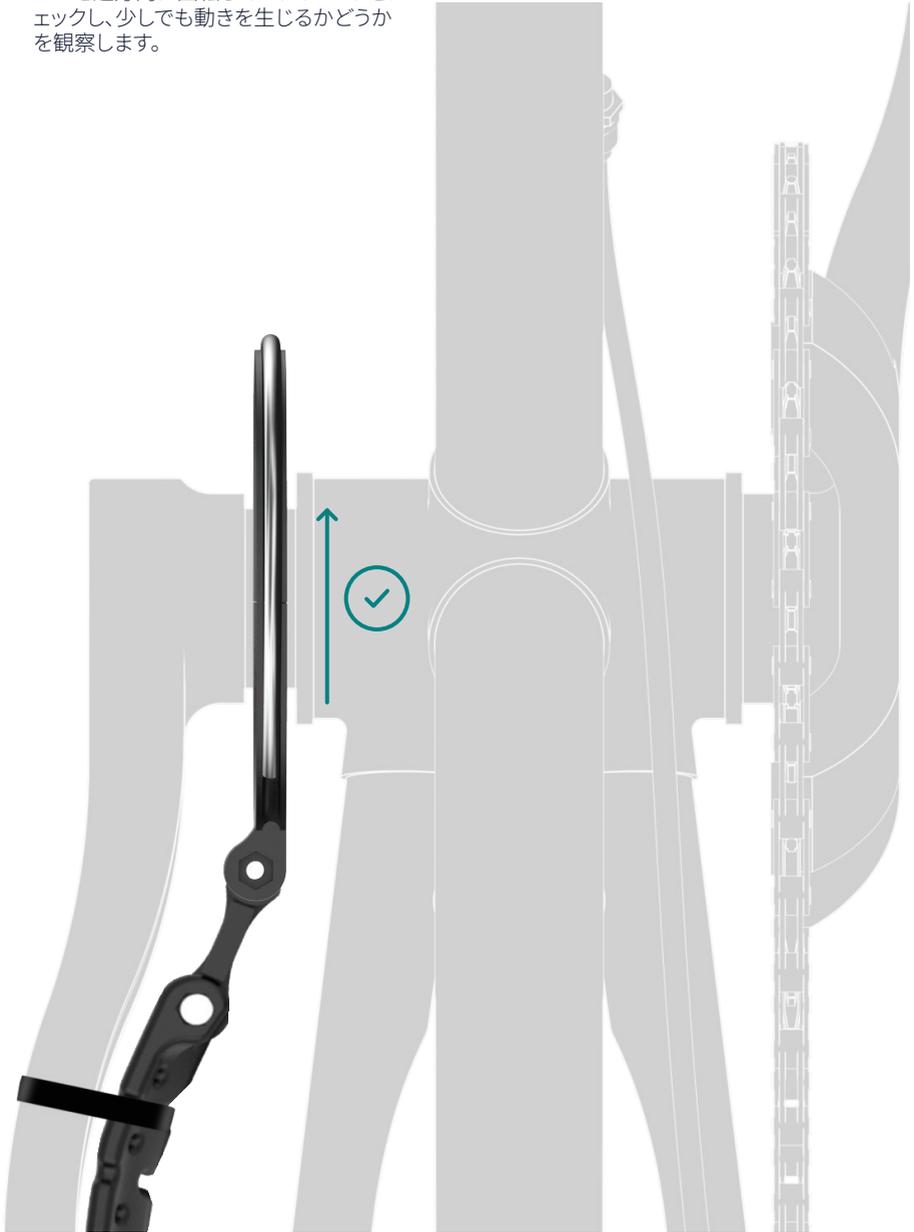
細いペダルアームの場合、穴にケーブル縛り紐を通して締め付け、グリップを高めます。



9. アライメントのチェック

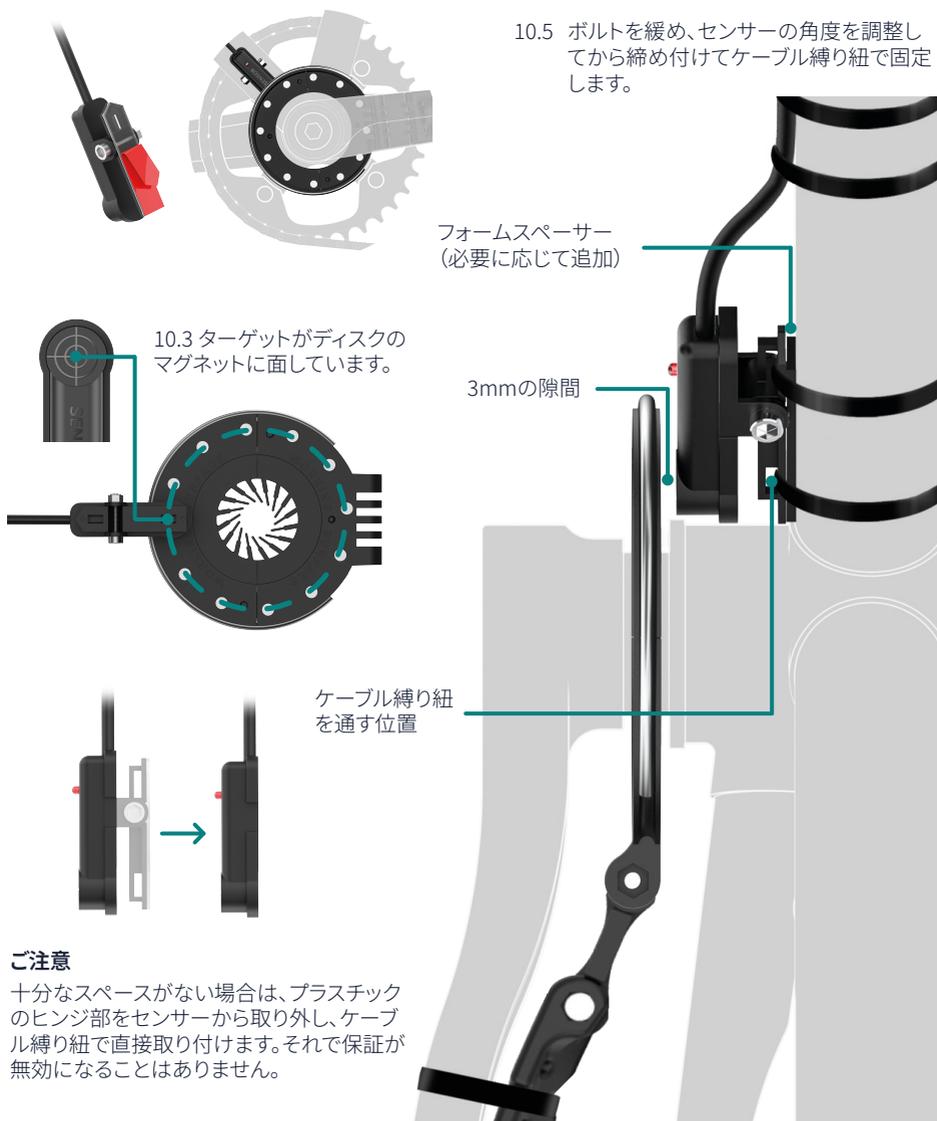
9.1 磁気ディスクは、フレームに対して平行を保って動作する必要があります。ペダルアームを逆方向に回転してアライメントをチェックし、少しでも動きを生じるかどうかを観察します。

9.2 アライメントが正しいことを確認したら、ケーブル縛り紐とボルトで固定します。

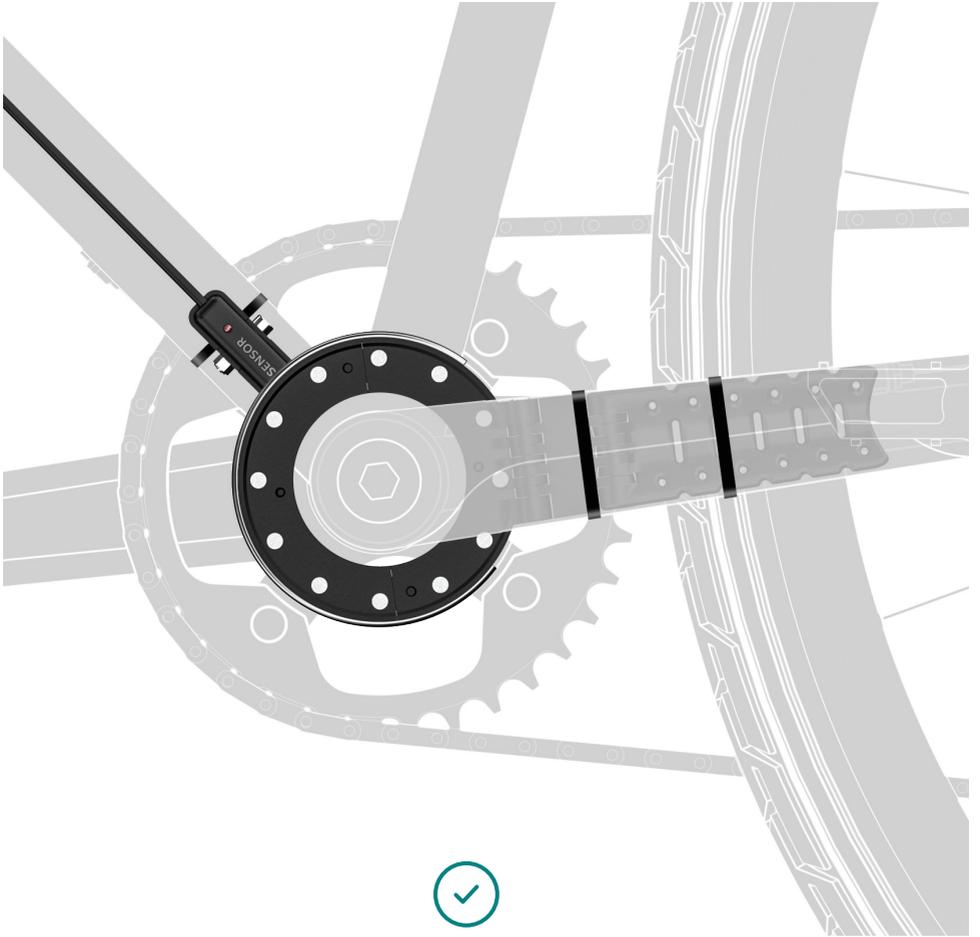


10. センサーの位置決め、貼付と固定

- 10.1 赤いシールをはがし、センサー裏側の粘着面を開きます。
- 10.2 センサーをダウンチューブまたはシートチューブの側面に貼り付けます。
- 10.3 センサー中央部の高さがディスクのマグネットと必ず一致するようにしてください。
- 10.4 センサーの位置が磁気ディスクから3mm以内になるよう、必要に応じて粘着フォームスペーサーを使用します。
- 10.5 ボルトを緩め、センサーの角度を調整してから締め付けてケーブル縛り紐で固定します。



11. 終了



一体型センサー



標準的なクランク (例: スクエアテーパー) 用の一体型センサーです。ペダルアームを取り外し、装着後に再度取り付ける必要があります。また、ボトムブラケットには20歯スプラインが必要です。

必要なもの:

8mmの六角棒レンチまたは14mmソケット

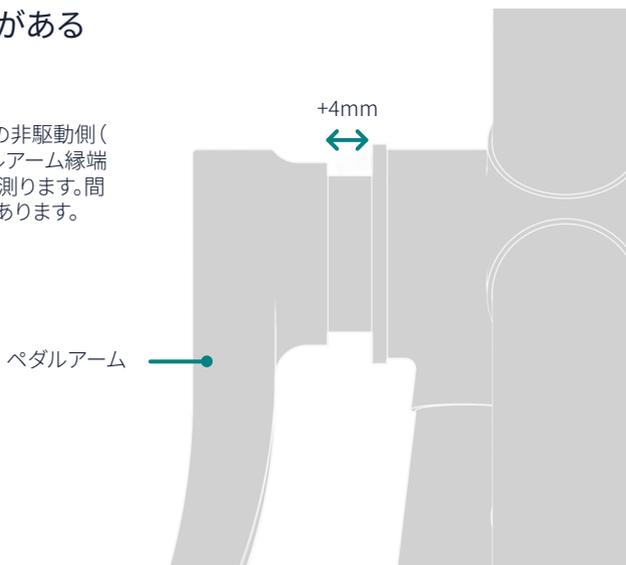


クランクエクストラ



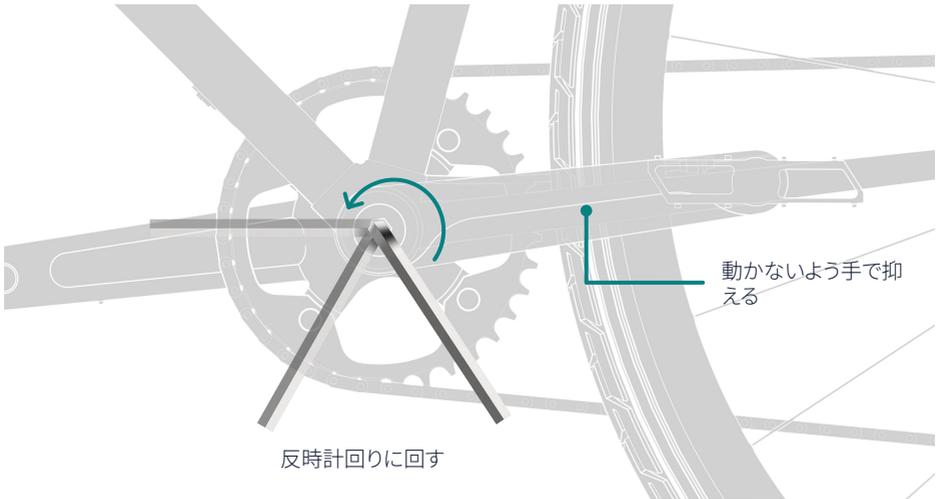
1. 装着するスペースがあるかどうか確認

- 1.1 測定定規を使って、自転車の非駆動側 (チェーンと反対側) のペダルアーム縁端と自転車フレームの隙間を測ります。間隔は4mmを上回る必要があります。



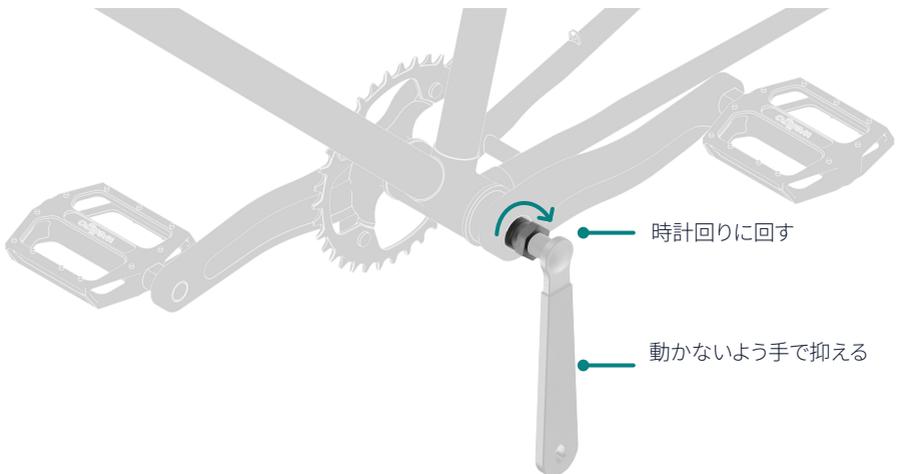
2. クランクアームのボルトを緩める

- 2.1 六角棒レンチまたはソケットでボルトをクランクから取り外します。作業はチェーンと反対側で行います。



3. クランクエクストラクターのボルトを締め付ける

- 3.1 クランクエクストラクターのボルトを時計回りに回し、しっかり締め付けます。クランクが動かないよう、もう一方の手で抑えます。

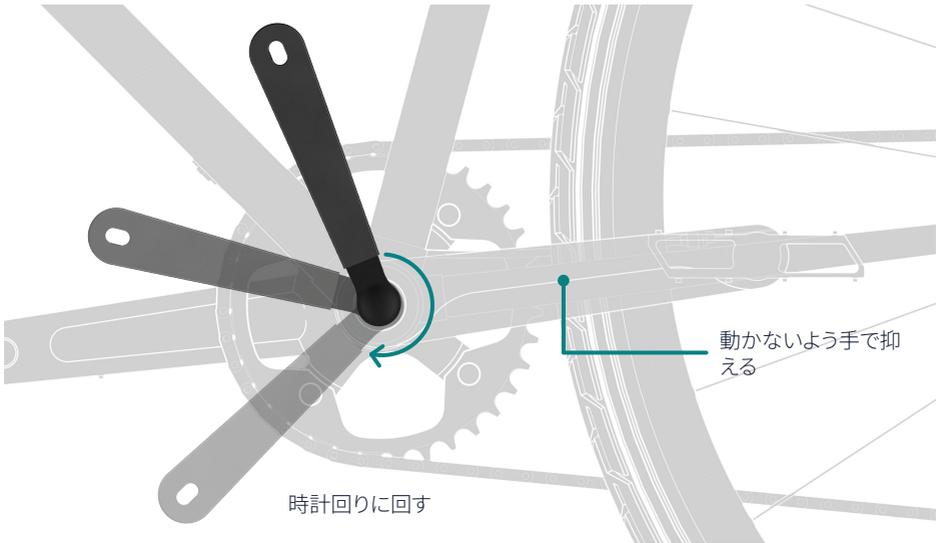


4. エクストラクターを回してクランクアームを取り外す

- 4.1 クランクエクストラクターのハンドルを時計回りに回してアームを取り外します。

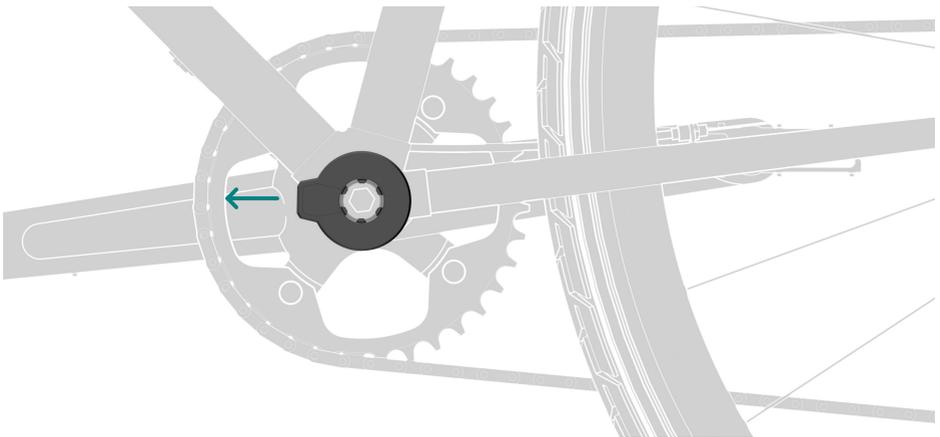
ご注意

これを回すにはかなりの力が必要なことがよくあります。



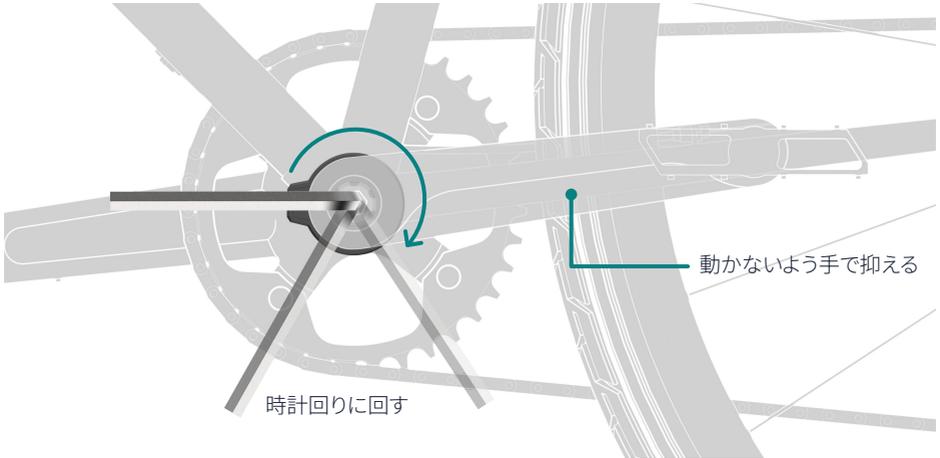
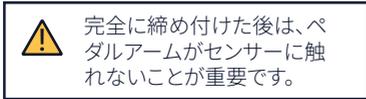
5. 一体型センサーを取り付ける

- 5.1 一体型センサーをボトムブラケットのシャフトに完全に滑り込ませます。ケーブル接点は必ず左側、フレーム方向を向くようにしてください。

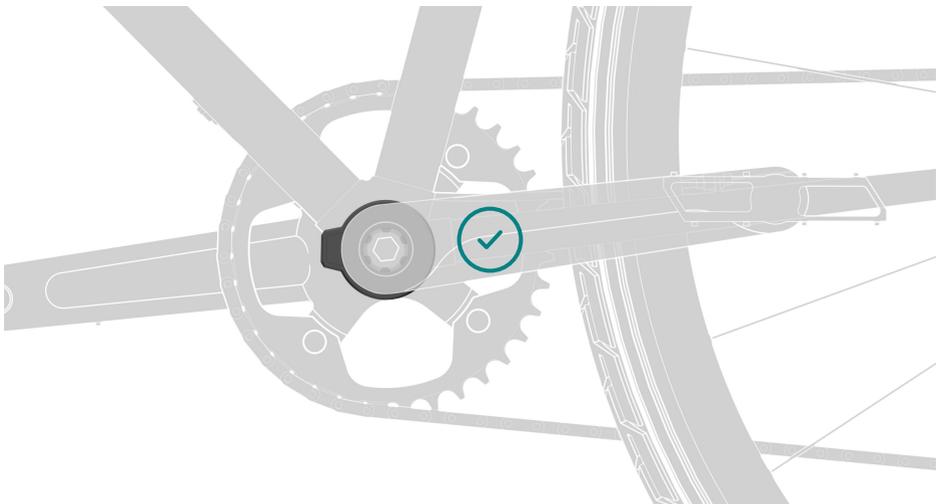


6. クランクを再度取り付ける

- 6.1 クランクを再び取り付ける正しい位置を特定し、元通りはめ込みます。
- 6.2 ボルトを再び差し込み、メーカーの締付トルク仕様に従って六角棒レンチで締め付けます。



7. 終了



電源パック

Swytch Goの電源パックです。リチウムイオンバッテリーを内蔵し、エネルギーをキットに供給します。

Swytch Goの電気容量は、以下の3種類です：
GO 180Wh、GO+ 280Wh、GO++ 370Wh



バッテリーには危険物質が含まれています。分解したり、衝撃を与えたり、水に浸したりしないでください。それで保証が無効になります。



この電源パックは、気温が-10°C以下または40°C以上の場所に置かないでください。

1. 電源パックをどこに取り付けるかを定める

- 1.1 標準とロングのハーネスのどちらを選んだかによって、電源パックを自転車のどこに取り付けるかを決めます。

ご注意

コネクターポートを直接フレームに向けないでください。接続が塞がれてしまいます。

標準

標準ハーネスで、電源パックをフレームの範囲内に取り付けることができます。



ロング

ロングハーネスは、電源パックを下図のいずれかの位置に装着する場合のみに必要です。



2. 電源パックを固定する

- 2.1 マジックテープのストラップ3本で、自転車上のご希望の位置に電源パックを固定します。

各ストラップのバックルで、電源パックを安全に固定してください。



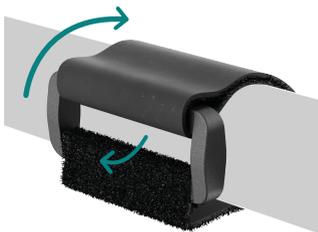
正しく固定するため、ストラップを3本使用しなければなりません。



ブレーキが通常通り機能するかどうかをチェックします。



バックルを通してストラップの輪を作る

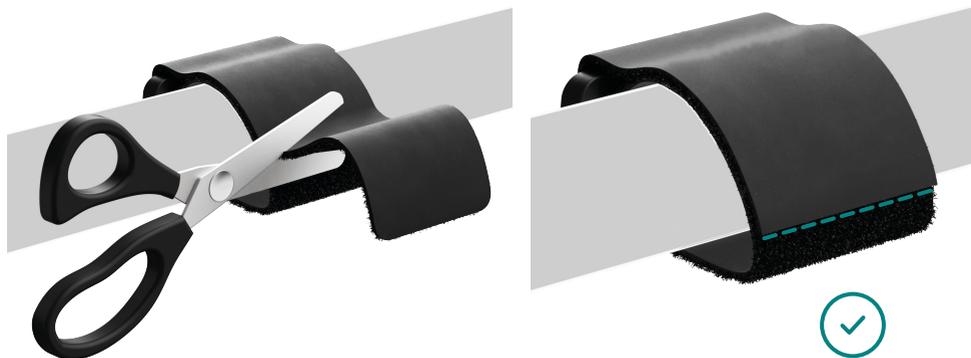


2. ストラップを適当なサイズにカットする

- 2.1 3本のストラップをハサミで切り整え、余分な部分はすべて取り除きます。



ストラップを自転車のフレームにしっかりと固定できるように、必ず十分な長さを残してください。



3. 保護シールを貼り付ける (オプション)

- 3.1 自転車の塗装を傷める危険を最小限に抑えるため、電源パックとフレームが接触する可能性がある場所に付属の透明保護シールを貼り付けます。

ご注意

テープの摩耗が目立ってきたら、交換する必要があります。

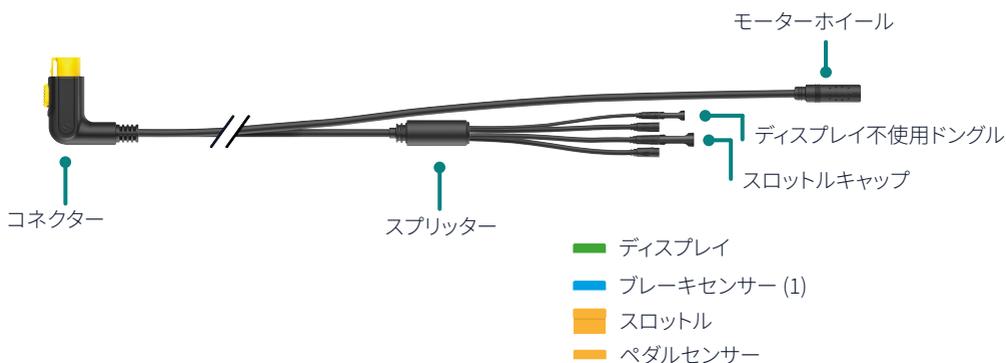


ハーネス

ハーネスで、電源パックをSwytchキットシステムに接続します。それぞれ目的の違う5種類のコネクタを備えています。

ご注意

ハーネスは、ディスプレイなしで操作するためのディスプレイ不使用ドングルとスロットルキャップを装着してお届けします。ディスプレイまたはスロットルをご購入の場合、ドングルまたはキャップを外してディスプレイ/スロットルに差し込むだけで使用できます。



1. ハーネスを接続する

- 1.1 ハーネスのコネクタを電源パックのコネクタポートに押し込んでください。コネクタ先端の黄色が見えないようにしっかり押し込みます。

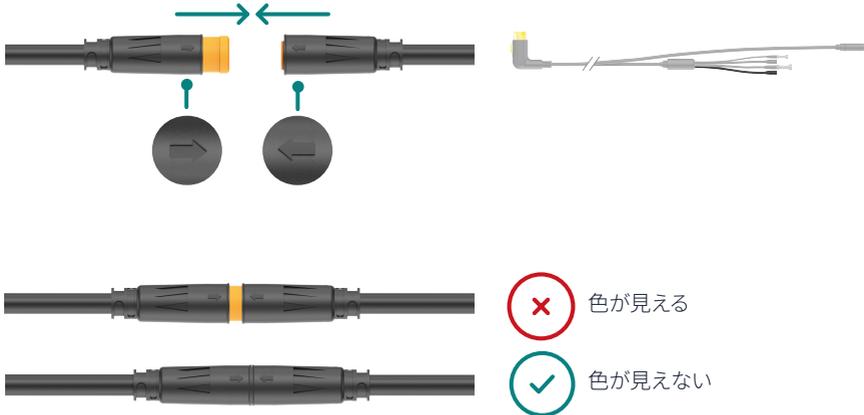
ご注意

ハーネスを取り外すには、黄色のボタンを押し込みながら引き抜いてください。



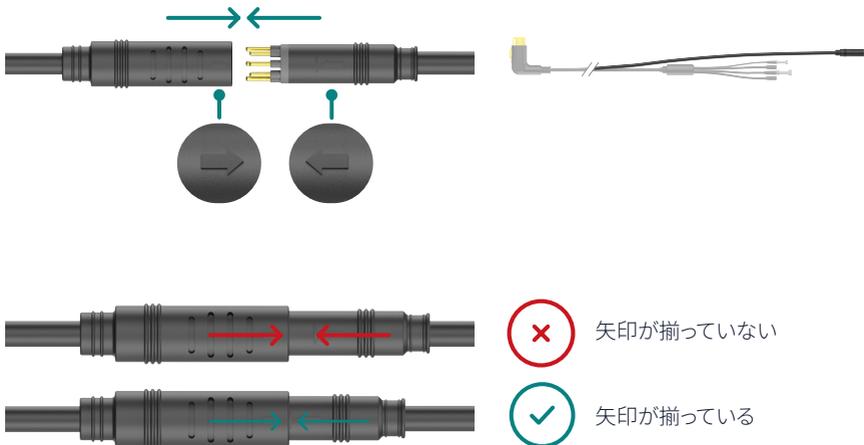
2. ペダルセンサーをハーネスに接続する

- 2.1 防水仕様のコネクタを接続するには、両コネクタの矢印を一行に揃えます。矢印が並んだら、色が見えなくなるまでしっかり押し込んでください。



3. モーターケーブルをハーネスに接続する

- 3.1 防水仕様のコネクタを接続するには、両側の矢印を揃えてから、2つの矢印が並んで触れ合うまで押し込んでください。



4. ハーネスとケーブルの配線経路

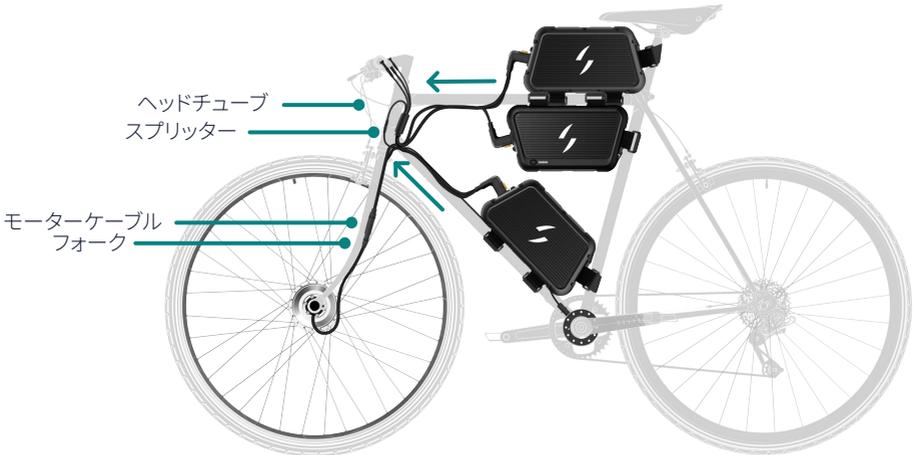
下のダイアグラムは、電源パックの配置によって異なるケーブルの経路を示しています。ケーブルは、このダイアグラムに従って配線してください。



ケーブル配線は、決して自転車の駆動列、ステアリング、ペダリングに影響を与えないようにしてください。

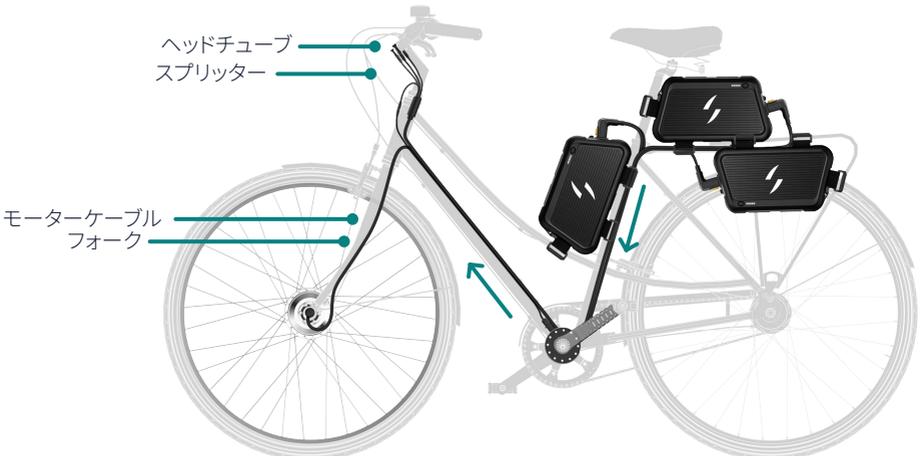
標準

ケーブルを自転車のヘッドチューブまで最短経路で配線します。そこにスプリッターが位置するようにします。モーターケーブルはフォークに沿って配線する必要があります。



ロング

ケーブルの長さを可能な限り活用して、ケーブルを自転車のヘッドセットまで配線します。そこにスプリッターが位置するようにします。それからモーターケーブルをフォークに沿って配線する必要があります。



5. ハーネスとケーブルを固定する

- 5.1 付属のケーブル縛り紐で、すべてのケーブルを自転車のフレームに安全に固定します。

ご注意

ご自分の自転車で既存の配線経路に従ってください。



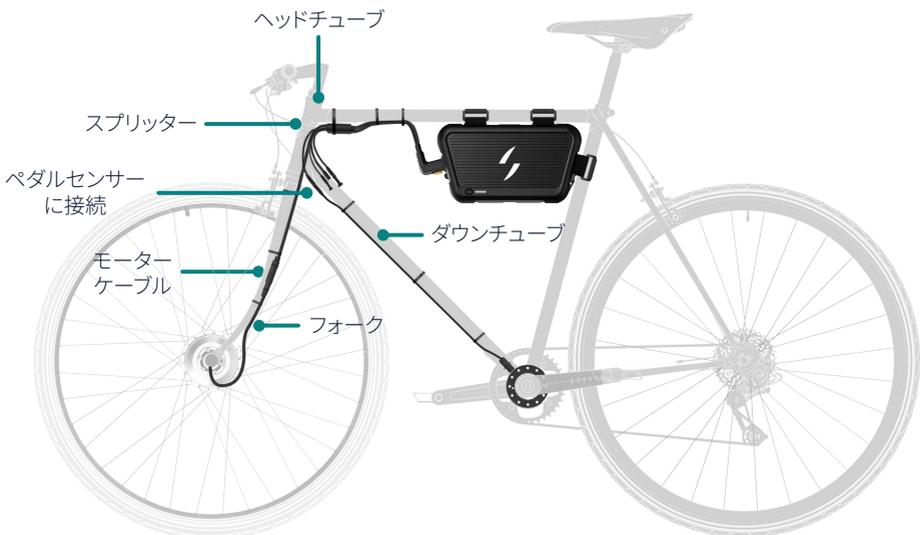
モーターケーブルは、自転車のフォークに安全に固定します。



ペダルセンサーケーブルは、自転車のダウンチューブ下側に安全に固定します。



スプリッターは、ヘッドチューブ手前で下向きに固定してください。



ご注意

ケーブルの余分な長さは巻き取ってループを作り、フレームに安全に留め付けます。
[ここをクリックして実例をご覧ください。](#)

3

自分のキットを理解

走行を始める

充電

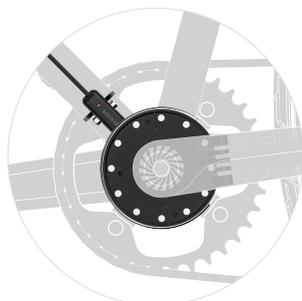
メンテナンス

走行を始める

- 1.1 走行を始めるには、まずすべてのケーブルを完全に接続し、ペダルセンサーを正しく装着したことを確認してください。
- 1.2 電源パックのオン/オフボタンを押すとLEDが点灯し、電源がオンになったことを表示するはずですが、
- 1.3 ペダルを踏み始めると、ペダルセンサーが点滅してパワーが入ってきます。

ご注意

オプションのディスプレイに接続した場合、この説明は若干異なります。さらに詳しくは、ディスプレイの説明書を参照してください。



ご注意

走行を終了するには、電源パックのオン/オフボタンを押して電源パックをオフにするだけでかまいません。

押してオフにする



充電

- 1.1 電源バックをオフにします。
- 1.2 図に従い、充電器のケーブルをコネクタポートに差し込みます。
- 1.3 電源バックの充電が完了すると、充電ブロックのライトが赤から緑に変わりますので、プラグを抜いてください。



長時間充電中そのまま放置しないでください。



バッテリーの充電には、付属の充電器のみをご使用ください。



バッテリーを長期間保管する場合、あらかじめ完全に充電してからボタンを押してバッテリーをオフにします。

バッテリーの寿命を維持するため、90日ごとに充電してください。



メンテナンス

間隔 (いずれか早い方)	Swytchキット	自転車
毎回走行のたびに	電源パックの再充電 ブレーキセンサー装着時は正常な作動を点検	タイヤ空気圧 タイヤに食い込む破片・トゲなどの確認 ブレーキの確認
毎月 20時間使用ごと 500マイル走行ごと	冬場の保管前にバッテリーを追加充電 モーターホイールのナットの締付を確認 ペダルセンサーが正しい位置にあることを確認	ブレーキの調整 チェーンの注油 タイヤの摩耗部分を探す
6か月ごと 100時間使用ごと 3,000マイル走行ごと	モーターホイールのスポークテンション点検 モーターとセンサーのコネクタ点検 スロットルとペダルセンサーの正常な作動を確認 電源パックの損傷を点検 ストラップの損傷を確認	駆動部品の念入りなクリーニング リムに歪みがなく、不規則な揺れがないことを確認
12か月ごと 200時間使用ごと 6,000マイル走行ごと	モーターホイールがスムーズに静かに回転することを確認	必要に応じて駆動部品の交換 必要に応じてベアリングのグリスアップ

Swytch Technology Ltd,
Unit 2A
455 Wick Lane
London
E3 2TB

スキャンしてSwytchヘルプ
センターをご利用ください。

